

令和5年8月21日

八戸市議会

議長 小屋敷 孝 様

民生環境常任委員会

委員長 中 村 益 則

視 察 実 施 報 告 書

本委員会は、次のとおり委員を派遣し、調査視察を実施したので、行政視察等実施要領第2（3）の規定により報告します。

- | | |
|------------|--|
| 1 日 時 | 令和5年7月10日（月）～7月12日（水） |
| 2 視察先・調査事項 | （1）宮崎県都城市
カーボンニュートラル推進計画について
（2）宮崎県宮崎市
子ども食堂及びフードドライブに関する取組について |
| 3 調査結果概要 | 別紙のとおり |
| 4 派遣委員 | 中村 益則
吉田 洸龍
長谷川 ひろゆき
間 盛仁
山名 文世
伊藤 圓子
坂本 美洋 |

【委員会調査報告書】

委員会名	民生環境常任委員会
派遣委員名	◎委員長：中村 益則 ◎副委員長：吉田 洸龍 ◎委員：長谷川ひろゆき、間 盛仁、山名 文世、伊藤 圓子、坂本 美洋
日程	令和5年7月10日（月）から7月12日（水）まで
目的	カーボンニュートラル推進計画及び子ども食堂・フードドライブに関する取組を視察し、当市の環境推進並びに子ども・子育て施策の参考とするため
視察先	宮崎県都城市（都城市役所）、宮崎県宮崎市（宮崎市役所）
視察概要	<p>1 宮崎県都城市役所</p> <p>(1)調査事項：カーボンニュートラル推進計画について</p> <p>(2)説明者 環境森林部 環境政策課 課長 外山 保志 氏 副課長 下鶴 咲子 氏 副主幹 瀬戸口 勇也 氏</p> <p>(3)概要</p> <p>①背景・目的</p> <p>地球温暖化をはじめとする気候変動問題に対し、国は令和2年10月に2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言し、令和3年4月に開催された気候変動サミットにおいても、2030年度の温室効果ガス排出量2013年度比46%削減を目指し、さらに50%の高みに向けて挑戦し続けると決意表明した。</p> <p>このことから、市として差し迫った危機である気候変動に対して、一人ひとりが環境に関する意識を高め、市民・民間団体等・事業者・行政のあらゆる主体が一体となって地球温暖化対策に取り組み、2050年カーボンニュートラルの実現を目指すものである。</p> <p>②具体の取組</p> <p>施策の方向性Ⅰ 地域経済と脱炭素化の両立</p> <p>○脱炭素型ライフ・ビジネススタイルへの変換</p> <p>i 脱炭素型ライフ・ビジネススタイルへの転換</p> <p>ii 住宅や事業所における脱炭素化の推進</p> <p>iii 水素エネルギー等の利活用に関する情報収集・情報発信</p> <p>○公共施設のZEB化・省エネ化の推進</p> <p>i 公共施設のZEB化・省エネ化の推進</p> <p>○脱炭素化に向けた技術の普及</p> <p>i 脱炭素化に向けた技術に関する情報収集及び普及促進</p> <p>ii 電気自動車等の普及促進</p> <p>iii CO2分離・回収技術の活用に関する情報収集</p> <p>○脱炭素経営の意識醸成</p> <p>i 事業者の脱炭素経営を後押しするための情報収集・情報発信</p>

- 地域脱炭素ビジネスの推進
 - i 地域循環経済に資する脱炭素ビジネスモデルの検討
施策の方向性Ⅱ
- 農林畜産業における脱炭素化の推進
 - i 地域特性を活かした再生可能エネルギーの導入促進
 - ii 農林畜産業における温室効果ガス排出抑制
- 森林整備費によるCO₂吸収減対策の推進
 - i 森林整備・保全の推進
施策の方向性Ⅲ
- 公共施設等への再生可能エネルギーの積極導入
 - i 公共施設等への再生可能エネルギーの積極導入
- 住宅や事業所等への太陽光発電設備等の設置促進
 - i 住宅や事業所等への太陽光発電設備等の設置促進
- PPAモデルや卒FIT電力の活用検討
 - i PPAモデルの導入・活用検討
 - ii 卒FIT電力の活用検討



2 宮崎県宮崎市役所

(1)調査事項：子ども食堂及びフードドライブに関する取組について

(2)説明者 子ども未来部 子育て支援課 主幹 高橋 理恵 氏
主任主事 高橋 航己 氏
支え合いの地域づくりネットワーク コーディネーター
黒木 淳子 氏

(3)概要

①背景・目的

地域の居場所となる子ども食堂を応援するため、官民の協働により子ども食堂コーディネーターを設置し、子ども食堂の取組の周知、拡大に努めるとともに、地域の身近な相談相手である民生委員、児童委員、地域のアンテナ役として活動する福祉協力員などと連携することで、子ども食堂を入口として子どもを適切な支援につなぐ体制づくりを行うものである。

②具体の取組

○子ども食堂ネットワーク応援事業

全ての子どもたちの地域における居場所であり、日常生活の中で何らかの支援を要する子どもたちの支援の入口となる子ども食堂の取組

を市内に広げるためコーディネーターを配置し、開設・運営支援や食材のマッチング（フードドライブ、市庁舎等でのフードドライブの開催）を行う。

令和5年度委託費：6,808,000円

委託先：支え合いの地域づくりネットワーク

（NPO法人みやざき子ども文化センター×NPO法人みやざきママパパhappy）

※子ども食堂コーディネーターとは…

- ・市内の子ども食堂の利用相談や開設相談に対する助言を行う。
- ・市内の子ども食堂に対する企業等からの資金や食材等の支援のマッチングを行う。
- ・市内の子ども食堂運営者同士をつなぐネットワークを構築する。
- ・子ども食堂運営の開設・運営マニュアルを作成する。
- ・子どもの支援を行う専門家や関係団体等とのネットワークを構築する。
- ・子ども食堂の取組を広げるためのイベント等を開催する。

○宮崎市子どもの未来応援活動支援事業

・宮崎市子どもの未来応援基金

貧困対策をはじめ、子どもの未来を応援する事業に長期的に取り組んでいくもので、市民や企業からの寄附の受け皿となり、事業に活用していくことで子育てや貧困の課題に社会全体で取り組むという意識の醸成を図るもの。

・子どもの未来応援活動支援補助金の創設

子どもの衣食住等の体験活動、子どもの居場所の提供、子どもや保護者等の社会的孤立の防止、その他経済的貧困及びつながりの貧困の解消に資する事業を対象に交付するもの。補助金活用の具体例として、大学生や教職員OBの学習支援、入学時のバックのプレゼントがある。



所 感	<p>宮崎県都城市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年と令和2年における市町村別農業出荷額が全国第1位となっており、その中でも畜産部門が84.7%を占めているなど非常に強みを持っているまちと感じた。当市と強みは違うが、取組を参考にさせていただく。 ・鶏の排泄物でバイオマス発電を行っており、将来的には牛や豚の排泄物を利用する予定があるとのことで、地域特性を活かしながら未来に繋げていく持続可能な取り組みであると感じた。 ・今後のまちづくりを考えながら行っているということで当市でも参考にすることが多いと感じたので、今後の活動の参考にさせていただきたい。 ・スマート農林業及びソーラーシェアリングの普及を非常に進めていこうという意志を感じた。 ・2050年の計画実現に向けて2030年の中間目標までに取組の促進普及・定着を、5年ごとに内容を見直しつつ2050年までに取組を加速化していくとのことで、非常に先を見据えた計画であることに感銘を受けた。 ・バイオマス発電に関して、地元の酒造や発電会社と非常にスムーズに連携できていると感じた。 ・カーボンニュートラルの非常に難しい点として、評価が定めづらいという点が挙げられるが、国の動向に注視しつつも独自に尽力し目標を定めているなど、当市の環境政策においても見習うべき点があった。
	<p>宮崎県宮崎市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただフードドライブを行うのではなく、フードドライブを通して地域活性化に繋げていこうとする考えの下で子ども食堂を開設し、地域の方を巻き込んで子どもたちに食事を提供する取組を行っていた。 ・食事提供を行うだけでなく、その中でもさらに行政支援が必要な子の発掘も併せて行うということから、非常に幅の広い今後のまちづくりにつながっていく活動であると感じた。 ・話を伺って、なぜ44箇所もの子ども食堂がこんなにもスピーディーに広がっていったのか、コーディネーターの力が非常に本当に大きいとわかった。また、その熱量に感動した。 ・子ども食堂をつくるにあたって、市内22か所を2周するなど、ケアの仕方が非常に素晴らしいと感じ、参考にさせていただこうと嬉しく参加させていただいた。これからの活動に活かしていきたい。 ・子ども食堂というと、どうしても貧困のイメージがあり、そもそも行きづらいということがあるので、中高生やお年寄りまで幅広く集まれる雰囲気づくりが非常に大切だと感じた。 ・子ども食堂と地域コミュニティの関わりについて、新たな可能性を感じる取組であったので、今後の活動に参考とさせていただく。 ・非常に斬新な内容であった。地域性の違いなどから当市にそのまま当てはめることは難しいと思うが、参考にさせていただき、今後の活動に役立てていきたい。